

# EXPERIENCE KESEN



*Find your romantic adventure*

復興に向け国内外から多大なるご支援と励ましを賜りましたことに対し、御礼申し上げます。  
東日本大震災津波で破壊された地域の真の再生のためには、地域の歴史と文化に学び、これを未来に伝える努力をすることが大切だと考えます。そこで、この紙面を通じて、歴史文化観光地としての気仙地域の魅力をお伝えしたいと思います。第3弾は「気仙の郷土芸能」についてです。

## 気仙地方の郷土芸能について

郷土芸能（民俗芸能）とは、我々の先祖の代から生活に密着し地域で演じられてきた民間芸能であって、専門の俳優による舞台とは区別されます。

岩手県はその豊庫と言われており、種類・数の上では日本一という人もおります。気仙地域では「ししおどり」・「けんばい」が多く伝承されています。

「ししおどり」には色々種類があり、鹿は「かのしし」、猪は「いのしし」、カモシカを「あおしし」と呼び、他にも「唐獅子」（権現様又は虎舞）があります。

また、「けんばい」は地元では「けんべあ」とも言い、「剣の舞い」ではなく、「へんばいを踏む」といって、大地を踏みしめることによって悪霊を退散させる行為をさし、お相撲さんが「四股」を踏んだり、役者が拍子木に合わせて「見えを切る」のも「けんばい」と同じ意味といわれています。



いたようかたいかりけんばい

## 板用肩怒剣舞（大船渡市）

大宝暦初年（1751）、猪川町稲子沢家は財力にものを云わせ、京都より仏具師や彫刻師を招き、仏像、仏具を制作し広大な舎殿を造営しました。

当時稲子沢家には、多数の使用人達があり、その和をはかるため、先祖の江刺に古くから伝わる念佛剣舞を取り入れ、剣舞に使う面や装束を作らせました。

剣舞は鎧を着用せず、紺の細袖に派手な染模様の長袖を付けた襦袢の上に、両肩を半円弧形に張り出し、赤く縁取った胴着を着けることから「肩怒剣舞」と呼ばれています。

しもざいだいみょうぎょうれつ

## 下在大名行列 (住田町)

明治初年、現在の住田町世田米地区の佐々木某が室根神社（一関市室根町）に奉納される行列を習い覚え、帰省して地元の人々に伝えたのが、下在大名行列のはじまりといわれています。

かつて気仙川沿いの村々に赤痢が流行し、多くの犠牲者が出ましたが、下在地区の人々は、村の社に病魔退散を祈願したところ効あって同地区から一人も病人が出なかったといわれています。

そこで地元の人々は、祈願成就の御礼として、天照御祖神社式年大祭（三年祭。例年5月初旬）に、神輿が練り歩き人々の安寧を祈念する際には先頭を務め、お供する行列する習わしとなっています。



ねさきはしごとらまい

## 根岬梯子虎舞 (陸前高田市)

50°の角度で空に向かって立てられた長さ約20mの梯子のてっぺんで根岬梯子虎舞は踊られます。

高い梯子の上で舞うといった曲芸的な踊りで観賞的な要素が強いものですが、その由来は、昔、ある神様が大量のお供の者と谷間で一頭の唐獅子に行く手をさえぎられたとき、一行の才坊という者が唐獅子を岩崖の上へ誘って一行は無事出雲に到着したとの伝承を再現した踊りといわれています。

鶴樹神社と黒崎神社の例大祭で4年に1度の10月頃奉納されます。



ながはまししおど

## 永浜鹿踊り (大船渡市)

鹿踊りは、岩手県南部から宮城県北部の旧伊達領を中心に広く分布しており、行山流、金津流、春日流の3つの流派があります。多くは行山流で気仙地方も同様です。現在の大船渡市に伝わる永浜鹿踊りは、東磐井郡舞川を経て住田町を経由して伝えられたといわれています。

永浜鹿踊りは、200年以上前に招来した志田家（屋号カシ）が庭元として活動の中心となってきました。踊りは、中立（ナカダチ）を中心に8人で構成され、その中立は代々庭元である志田家が務めてきました。



## たなばた けんか七夕 (陸前高田市)

陸前高田市気仙町今泉は、毎年8月7日、勇壮な太鼓が打ち鳴らされる中、華やかに飾られた山車どうしが激しくぶつかりあう「けんか七夕祭り」で賑わいます。

けんか七夕の由来は古く、寛永年間（1624～44）まで遡るといわれています。また、そのお囃子は、昔、金剛寺が今泉地区に移転した際、今泉と高田の両地区に分かれて行われた施餓鬼供養で、士気を高めるため今泉の人々が合戦の陣太鼓ふうに打ったものを取り入れたといわれています。

東日本大震災津波の影響で、4台の山車のうち3台も流されましたが、全国からの支援等をいただき中断せずに継続してきました。

七夕祭りは全国各地で見られますが、この気仙町の七夕祭りのように勇壮な祭りは珍しく、日本全国をみても唯一のものといわれています。



# 気仙ご当地グルメ ～ホタテとワカメの炙りしゃぶしゃぶ御膳～



陸前高田市に新しい「食」の観光資源が誕生しました。

その名も「ホタテとワカメの炙りしゃぶしゃぶ御膳」（通称ホタワカ御膳）です。

これは、同市が誇る3つの食材（活ホタテ・ワカメ・たかたのゆめ）を使った贅沢なおもてなし膳です。「活ホタテの刺身」「活ホタテの炙り」「活ホタテのかき揚げ」「ワカメのしゃぶしゃぶ」「ワカメごはん」「ホタテ汁」「香のもの」「ワカメデザート」が楽しめます。

このホタワカ御膳は、「陸丸」、「キャピタルホテル1000」、「ホテル三陽」、「カフェフードバーわいわい」の市内4店舗で食べることが出来ます。

☆☆より詳しい情報をお知りになりたい方は次の参考文献を参照願います☆☆  
(日本語での表記となります。)

- 大船渡市郷土芸能活性化実行委員会作成 「岩手県大船渡市の郷土芸能」
- 陸前高田市教育委員会作成 「陸前高田市の指定文化財」
- 平山憲治著 「大船渡市周辺の歴史散歩」

### 編集後記

取材に快く御協力をいただきました関係機関の方々、この場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました。今後も、多言語による観光情報の発信に努めていきますので御期待ください。